

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



公益社団法人国際観光施設協会 広報委員長
オフィス M かねひら

兼平 慎

1 日目・到着日

宿泊した「ホテル・コンチネンタルサイゴン」は 144 年前にホーチミンで最初にできた歴史的なコロニアル様式のホテル。当時、フランス人旅行者のためにフレンチスタイルの贅沢な宿泊を提供するのが目的で建てられた。映画「インドシナ」の舞台として使われたそう。部屋はオペラウィングビューで、オペラハウスとして使われていた「市民劇場」が目の前に見え、室内は広くて天井が高く、調度品にも長い歴史が感じられ、とても落ち着く。

2 日目

外は 37℃ 以上の危険な暑さの中、ホテル周辺を散策しながら、戦争博物館まで歩いた。戦争博物館には戦争カメラマン石川文洋さんの常設



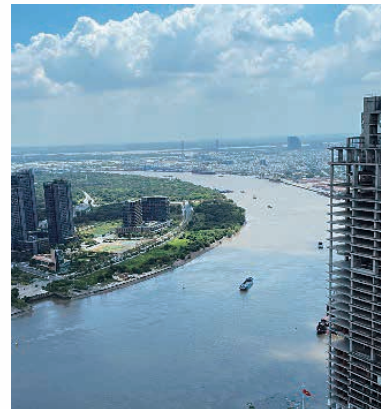
コーナーがある。ベトナム戦争の悲惨さと復興の記録に感動した。

午後から専用車でメコンデルタのミトー町に向かった。自動車専用道路からは、ところどころに旧正月の飾りが見えた。途中で休憩したドライブインには天皇陛下が訪れたソヌックミーエンダイレストランがあり、その前の綺麗な庭を散策した。ミトー町の船着場に到着し、船でメコン川を渡り、中洲のユニコーン島に到着。養蜂場に案内され、人に優しいハチの巣を見てロイヤルゼリーを買ってしまった。この島はたくさんの見たことのないフルーツの産地。

ディナーのため近くのカメー島まで船で移動。途中メコン川に映る夕陽が、飛び跳ねた波を照らし、まるで金色の魚の群れが跳ねているようで、とても綺麗だった。食後、メコン川の蜚が見られる場所に船で移動した。雄大なメコン川沿いのマングローブの林の中でキラキラと点滅し美しかった。

3 日目

「サイゴンスカイデッキタワー」49 階からホーチミン市全体を見下ろ



す。雄大なサイゴン河に浮かぶ船がゆったりと行き来し、ノスタルジックな時間が流れているようだった。沿道の飾りやアオザイの店を見ながら高島屋に入りショッピング見学、日本と値段はほとんど変わらなかった。

レロイ通り沿いにたくさんある雑貨店を見ながらホテルへ帰る途中、南国らしいスコールに遭ってしまった。

ベトナムの道路の優先権はバイクが一番で歩行者は最後。信号機は少なく、バイクの合間を縫って道路を横断するがスリルを楽しめる。日本の自転車のように歩道を逆走してくるバイクもあり、物すごく恐ろしい。

夜はホアトゥックサイゴンでベトナム料理を堪能。この店はアメリカ人ツアー客で満員だったが、予約なしで入れたのはラッキーだった。スタッフの活気にベトナムの経済の勢いを感じた。

4 日目

現地在住の友人が、所有しているタワマン 49 階に招待してくれた。

2024 年春 7 日間の旅 ベトナム・ホーチミン旅行記

公益社団法人国際観光施設協会 広報委員長 兼平 慎
オフィス M かねひら

その部屋からはホーチミン市が一望でき、高層ビルが次々に建てられていて街が発展しているようだ。その後、彼が今実際に居住しているタオデイエン地区に案内された。

「ハナ・ビエトナム」という人気のカゴバッグ店ではスタッフの方々はとても感じが良く、買い物を楽しめた。この地区は最近注目されていて、チョコレート工場や素敵な雑貨店がたくさんある。

その後、タオデイエン地区を散策しながらサイゴン川沿い的高级住宅街へ。カフェ「THE DECK」でベトナム珈琲と雄大な川の流れを楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごした。

5 日目

サイゴン駅から列車で出発、リゾート地「ファンティエット」へ。フランス植民地時代に敷かれた線路を住宅の中を縫うように走る、江ノ電のようだ。フルーツ農園や広い墓地、古い町中を 4 時間走り、ファンティエット駅に到着。列車自体は線路と同じく古いものだが、リクライニングシートに変えられ、冷房も付いていた。その冷房が効き過ぎていて物すごく寒い。そして車掌や車内



販売の声が大きく寝ていられなかった。

このファンティエット地区には日本人はほとんど来ないそうだ。「ビクトリアファンティエット・ビーチ & スパ」のビーチフロントバンガローに宿泊。ビーチは風が強く波は高いが快晴で、水着のアメリカ人がリクライニングベンチシートを占領していた。

ガイドのファンさんは笑顔が素敵な 49 歳。案内された「スエッティエン」(フェアリーストリーム妖精の溪流)は、赤い土の上を流れる川の中を裸足で歩いて妖精が住む素敵な場所に行く予定でしたが。私は足を怪我していたので辞退。「ムイネー漁村」の景色は映画のワンシーンのようで感動した。無数のカラフルな旗を掲げた小型魚船とトゥエントン(お椀のような丸桶)が浮かぶ漁港、ぜひ勧めたい場所だ。「イエロー砂丘」は名前のように黄色い砂。鳥取砂丘とは違い、海から少し離れた小高い丘。海から吹き上げて来る強風で、歩いた跡は直ぐに埋められ、黄色い風紋ができ、歩いた人は足も体も砂だらけになってしまう。

6 日目

ホテルから 1 時間ほど立派なハイウェイを走り「白砂丘」に到着。この地区には観光ワイナリーもあり、アメリカのナパからワインを輸入し、数年間保管して販売している。

ベトナム北部や中国からの観光客で賑わい、最高級ワインは RD1600 (約 20 万円) で、現在 3 本しか残っていないそうだ。

サイゴン駅への帰路、不思議な形のドラゴンフルーツ畑を見ながら爆睡した。最近、中国との関係が悪くなり、ドリアンやドラゴンフルーツの輸出が問題になっているそうだ。サイゴン駅に近くなると、帰宅通勤の物すごい数のバイクが踏切に張り付くように列を作り、開くのを待っていた。



7 日目・帰国日

キトー雑貨店で買い物、日本人がデザインした食器を店員に巧みに勧められ、自分用の記念に買ってしまった。一週間あまりの旅の疲れが出て、コーヒーショップ「rang rang coffee」でゆっくり休んだ。この甘くて濃厚なベトナムコーヒーは、フランス式で水を少しずつ飲みながら味わう。帰国は、夜中のフライト・・・サイゴンの月、最後の夜を迎えた。